

令和3年度調査・研究（特別支援教育部）の概要

特別支援学校における主体的・対話的で深い学びについて（3年研究）

大分県教育センター 特別支援教育部

令和元年度に、大分県内の県立特別支援学校16校を対象に、特別支援学校における主体的・対話的で深い学びについての現状と課題についてのアンケート調査を行った。その中で、①「深い学びの実現」、②「教科別の指導の充実」、③「重度の児童生徒の対話的な学びの実現」が課題であるということがわかった。そこで、令和2年度は、大分県内の県立特別支援学校2校に協力を依頼し、上記の3つの課題の解決を目指した授業実践を行った。詳細については、令和2年度調査・研究報告書にまとめている。なお、授業実践はステップアップ研修Ⅱ（採用3年目）の受講者に依頼をした。

<https://www.pref.oita.jp/uploaded/attachment/2107174.pdf>

研究期間は2年間の予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から当初の予定の実践数を確保できなかったため、3年研究に延長した。本年度は県立特別支援学校3校に協力を依頼し、7名の教員の実践を通して、「特別支援学校における主体的・対話的で深い学びについて」の実現に向けての実践事例を集積することとした。

9月末までに1回目の授業実践を行い、そこでの改善点を踏まえて、1月までに2回目の授業を行う計画を立てた。

9月末までにA校とB校の6名が1回目の授業実践を行っている。A校では、中学部の国語と美術、高等部の国語の授業を、B校では、中学部の国語と数学、高等部の数学の授業を行った。また、C校の1名が学校行事の都合で10月に実施する予定である。

今回は、9月末までの1回目の授業実践の振り返りとして、A校とB校の6名の教員の授業実践を紹介する。C校1名の実践は授業実施後、このホームページ上で追加更新する予定である。

【各実践について】

- 各実践を、実践の概要、良かった点・工夫されている点、課題、助言の4つの項目で整理し、記述している。
- 実践の概要の本時の目標については、育成をめざす資質・能力の三つの柱に基づき、各教科の知識及び技能に関するものを（知・技）、思考力・判断力・表現力等に関するものを（思・判・表）、学びに向かう力・人間性等に関するものを（学・人）と表している。